

2024年1月25日

2023年度聖路加国際大学大学院看護学研究科

課題研究

保健師による中高年層のひきこもり支援の現状と課題に関する研究

Support Provided by Public Health Nurses for Middle-Aged People Living as Hikikomori

(Socially Withdrawn and Refusing to Leave Home): The Current Situation and

Challenges

学生番号 22MN014

氏名 北原美佳

## 要旨

目的：本研究の目的は、40歳から64歳までのひきこもりに対する保健師の支援の現状と課題を明らかにすることである。

方法：3名の保健師へのインタビュー調査を行った。インタビューを基に逐語録を作成し、中高年層のひきこもり当事者とその家族に対する保健師の支援と課題について語られた内容を、意味や内容を損なわない範囲で要約し、コードとして抽出した。その後、抽出したコードを比較検討し、類似点や相違点を踏まえ、サブカテゴリ化、カテゴリ化を行った。なお、本研究は、聖路加国際大学研究倫理審査委員会の承認を受けて実施した。（承認番号 23-A054）

結果：中高年層のひきこもりに対する保健師の支援として、【保健師が将来に目を向け、見通しを立てて支援する】【看護職として医学的な知識を活かして関わる】【本人の生活をサポートする役目として支援する】【困った時は保健師に相談できることを周知する】【本人や家族の思い・希望を引き出す】【親への精神的な支援を行う】【保健師を頼ってもらえるような関係性の構築を図る】【必要な関係機関を見極め、協力しながら支援体制を作る】【平常時から関係機関との顔の見える関係づくりを行う】【支援の経験を次に活かす】【保健師としての今までの経験を踏まえて支援を検討する】の11カテゴリが抽出された。また、保健師による支援上の課題として【誰がひきこもり支援を行うのが明確になっていない】【保健師の経験に偏りがある】【支援が円滑に進まない】【本人や家族の思いや希望を引き出すのが難しい】【存在の発見が難しい】【他機関との連携が難しい】【保健師がやりたい支援と、実際にできる支援にジレンマがある】の7カテゴリが抽出された。

結論：保健師は、中高年層のひきこもりに対し、医療と生活の両方に目を向け支援を検討し、相談対応や、その後の関わりの中も含め、家族全体を支援の対象者と捉え、支援をしていた。また、他機関と平常時から関係づくりを行いながら、必要な関係機関を見極め連携しているほか、ひきこもり支援を地域全体で対応できるよう、行政の保健師として事例を集約し施策につなげるというような、地域の支援体制の構築に向けた保健師の取り組みが明らかになった。中高年層のひきこもり支援を専門的に担う存在がおらず、支援体制が各自自治体により曖昧になっており、保健師が中心とならざるを得ないことや、本人や家族・他職種に保健師の存在が知られていないこと、保健師に精神疾患の専門的な知識が求められることから、今後は専門部署の設置や、各機関の役割についての学習、早期からの精神疾患に関する実践的な教育が求められると考えた。